

姫野体制から奥川新体制へ移行

東京四極会

6月2日(土) 渋谷区の新日

鐵代々木俱樂部において理事会および本年度の定時総会を開催した。出席者は来賓5名、会員45名、計50名となった。審議では以下の議案が承認された。

1. 平成29年度決算案・平成30年度予算案
2. 新体制の件。姫野易之理事長(第44回)の退任に伴い、奥川隆生氏(第50回)が信



役員の中核は50歳代の現役社会人が担っている

任され、役員体制を含めて総会参加者の確認を得た。

【東京四極会の新体制】

理事長(奥川隆生)、副理事長(大坪孝幸)、事務局次長(鶴田幾雄)、事務局次長(下村晃、米井晃彦)、理事(石川公博、西坂憲郁、金馬弘明、梅木俊宏、田尻清司、小林伸彦、千葉史)、相談役(高橋信行、西依章郎)、監事(田中典明、松岡幸秀)

奥川新理事長「これまで9年間東京四極会の運営に尽力された姫野会長にお礼を申し上げる。私の仕事は東京四極会の基盤強化を急ぐこと。そのために新体制の中核は50歳代の現役社会人の方々に役員をお願いした。また、最近の卒業生の4割が女性会員になっていることを踏まえダイバーシティの観点から役員に千葉史さんを迎えた。こういう体制のもとで若手中堅会員がより多く参加する同窓会活動を考えてみたい」と挨拶。以上で総会議案をすべて終了

し、来賓挨拶に移った。まず、大分からの来賓、石川四極会会長が、4年後の2022年に経済学部創立100周年を祝賀する重要な意味合い、対応の考え方と東京四極会への支持の要請があり、同じく来賓の大崎経済学部長から石川会長の話を受けて、100周年記念行事に対する大学、四極会が一体となった体制や四極会本部に設置された女性部会について話題の提供があった。また、懇談中には野々下100周年記念事業実行委員長から100周年記念事業について、四極会活動の組織改革とともに進んでいる記念事業に向けた準備経過や事業遂行のための基金の目標額1億円についての説明があった。乾杯の音頭は高橋副理事長(第44回)が担当し懇談会に移行した。しばし懇談のあと、恒例の校歌、逍遙歌を全員で斉唱、西依事務局次長(第46回)の中締め挨拶で懇談会を終了した。

▼出席者(敬称略)

「来賓」石川四極会会長(第40

- 回)、四極会野々下理事(第39回)、100周年記念事業実行委員長)、大崎経済学部長、下田副学長、国土館大学田中教授、柴原佳史・衛藤参議院議員秘書
- 【会員】大神直人(第26回)、後藤浩(第33回)、用正靖彦(第36回)、一万田道敏(第38回)、小迫邦彦、佐藤泰久(第39回)、大山博康、友永英一、武藤孝雄(第40回)、葛城征志、松浦靖弘(第41回)、栗林保幸、高橋信行、田川俊夫、溝辺憲治、竹上英文(第44回)、佐藤勝峰(第45回)、西依章郎(第46回)、遠藤孝行、松浦隆志(第47回)、田中典明、山下政晴(第48回)、下村晃、中邑敬一(第49回)、伊賀勝秀、奥川隆生、鶴田幾雄(第50回)、石川公博、後藤昌幸(第53回)、米井晃彦(第54回)、大坪孝幸(第55回)、西坂憲郁(第56回)、金馬弘明(第57回)、田尻清司(第59回)、小林伸彦(第60回)、内田孝一(第61回)、小幡靖憲(第62回)、千葉史(第68回・平成5年)、衛藤寛(第69回・平成6年)、坂本浩一(教育学部・平成7年)、菊川敬規(院22回・平成12年)、横山祐真(第86回・平成23年)、宮本晃成(第92回・平成29年)